

株式会社テリロジー 2014年3月期 決算説明会資料

2014年5月29日

■ 目次

1. 2014年3月期 決算の概要	
・ 2014年3月期 業績ハイライト	5
・ 2014年3月期 連結業績の実績(前年対比)	6
・ 事業部門別売上実績(前年対比)	7
・ 事業部門別業績の概要	8
2. 2015年3月期 通期業績の見通し	
・ 2015年3月期 業績の予想数値	13
・ 2015年3月期 黒字化達成に向けた重点施策	14
・ 顧客基盤の強化と販路の拡大に向けた営業体制の見直し	15
・ 2015年3月期予想 (前年対比)	16
・ マーケット動向	17
・ 成長戦略① クラウドサービス市場	18
・ 成長戦略② セキュリティ市場	19
・ 成長戦略③ モニタリング市場	20
・ 事業部門別売上予想数値	21

株式会社テリロジー
2014年3月期
決算説明会
2014年5月29日

取締役副社長 阿部 昭彦

2014年3月期 決算の概要

■2014年3月期 業績ハイライト

減収・減益（前年対比:売上△0.7億円、営業利益△0.8億円）

<要因>

1) 大型案件失注および期ズレ
金額:約4.4億円

2) 円安進行による仕入れ価格の上昇
仕入れ価格上昇金額 → 前年対比:プラス1.1億円

3) 販売遅延
自社開発製品「momentum10Gバイト」のリリース遅れ

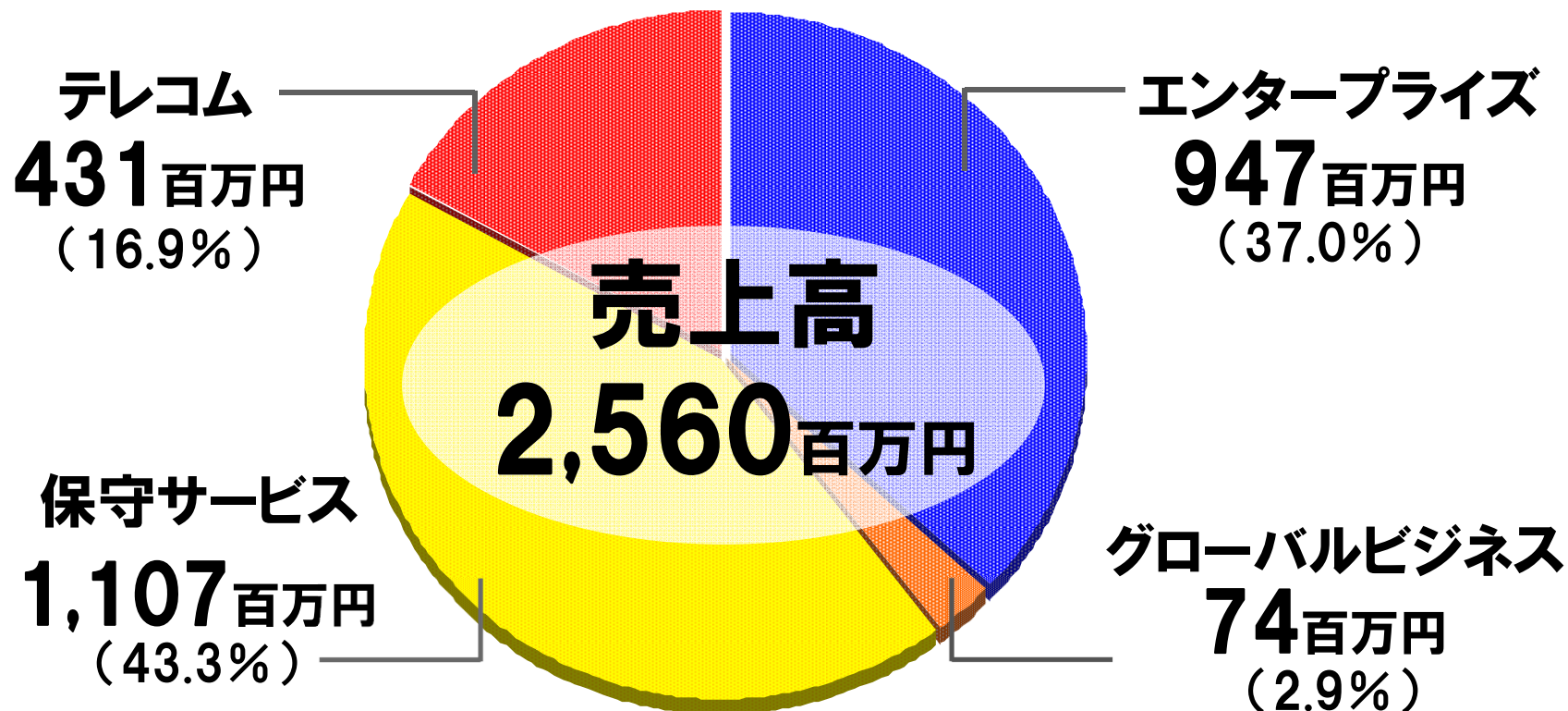
2014年3月期(2013年度)決算の概要

■2014年3月期 連結事業の実績(前年対比)

(単位:百万円)	2014年3月期 実績		2013年3月期 実績	
	連結		連結	増減額 増減比(%)
売上高	2,560		2,638	△77 △2.9
売上総利益	692		849	△157 △18.5
販売管理費	814		887	△73 △8.2
営業利益	△121		△37	△84 △226.1
経常利益	△153		△52	△101 △194.7
当期純利益	△147		△93	△54 △58.1
為替レート(ドル)	100.24円		83.11円	17.13円の円安
1株当たり 当期純利益	円 銭 △9.58		円 銭 △6.06	— —

(注)当社は、平成25年10月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株に割合し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。

■事業部門別売上実績(前年対比)



(単位:百万円)	2014年3月期 実績	【前年】2013年3月期	増減額	増減率(%)
テレコム部門	431	761	△329	△43.3
エンタープライズ部門	947	748	199	26.6
グローバルビジネス部門	74	44	29	65.2
保守サービス部門	1,107	1,083	23	2.2

■事業部門別業績の概要①

テレコム部門

売上高:431百万円 対前年比:△329百万円、増減率:△43.3%

<ネガティブ要因>

- ・LTE、Wi-Fiサービス向けインフラ構築案件の一巡化

<ポジティブ要因>

- ・スマートフォンの高機能化、通信ネットワークの高速化
 - モニタリング案件の増加(LTE網、IPネットワーク網向け)
- ・当社の技術力(ソフトウェア開発)
 - 高速モバイル通信サービス(WiMAX向けユーザ認証基盤構築)
 - 電力系ブロードバンドサービスプロバイダ
(インターネット接続支援ソフトウェア開発)

■事業部門別業績の概要②

グローバルビジネス部門

売上高:74百万円 対前年比:29百万円、増減率:65.2%

<ネガティブ要因>

- ・アジア・パシフィック地域のテレコムビジネス
→ 売上に貢献できず

<ポジティブ要因>

- ・欧州債務危機の影響はひと段落
→ 国内外の金融・証券市場は、再び活性化へ

■事業部門別業績の概要③

エンタープライズ部門

売上高:947百万円 対前年比:199百万円、増減率:26.6%

<ポジティブ要因>

- ・円安・株高を背景に、IT投資が回復へ
 - 顧客企業(大手製造業)案件の増加
 - ・ネットワークインフラ再構築(DNS・DHCP機器の再導入)
 - ・遠隔地をつなぐビデオ会議システム構築
- ・国内大手企業、団体を狙うサイバー攻撃、DDos攻撃
 - セキュリティ案件の増加
 - ・入口対策:ネットワーク不正侵入防御セキュリティ商品
(HP社TippingPoint)
 - ・出口対策:標的型攻撃対策クラウドサービス (Lastline社)

■事業部門別業績の概要④

保守サービス部門

売上高:1,107百万円 対前年比:23百万円、増減率:2.2%

<ネガティブ要因>

- ・円安の進行により保守関連経費が上昇
 - 更なる保守業務の内製化、業務委託費削減

<ポジティブ要因>

- ・安定的な収益基盤(ストックビジネス)
 - 契約更新率の向上
 - 保守売上は売上高全体の約4割

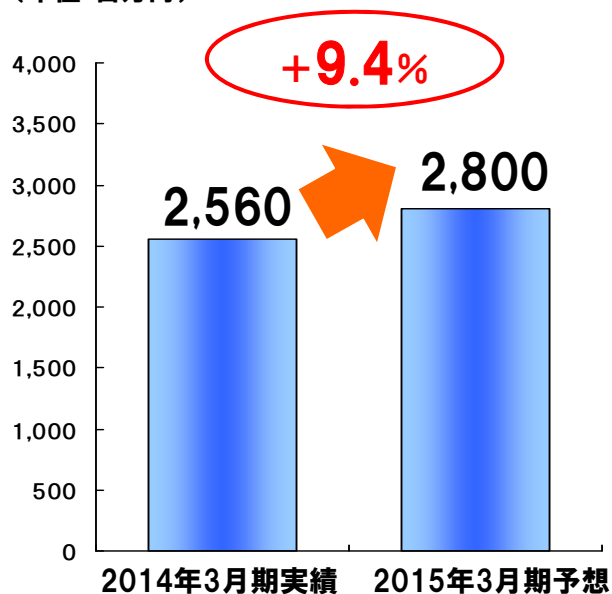
2015年3月期 通期業績の見通し

2015年3月期 業績の予想数値

売上高28億円、営業利益5千万円、経常利益3千万円

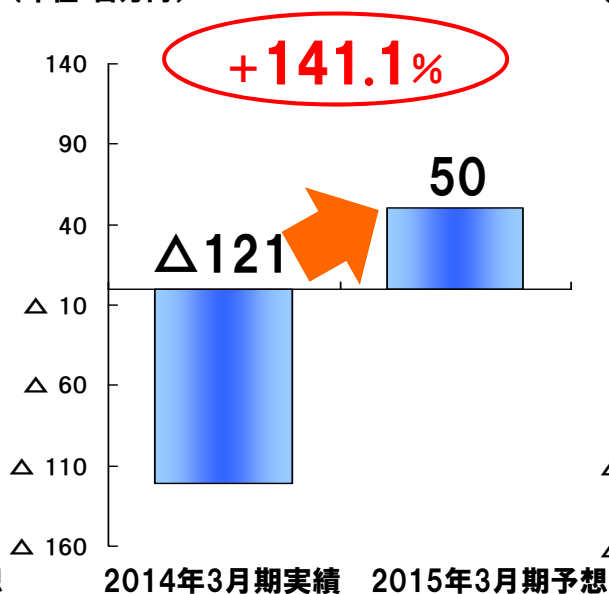
売上高

(単位:百万円)



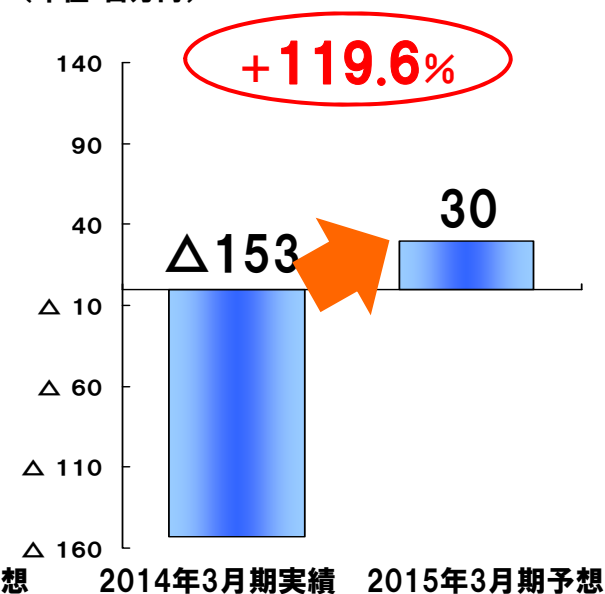
営業利益

(単位:百万円)



経常利益

(単位:百万円)



年間想定為替レート 1ドル=103円

■2015年3月期 黒字化達成に向けた重点施策

<重点施策>

1) 顧客基盤の強化と販路の拡大に向けた営業体制の見直し

2) 為替リスク(円安)に対する施策

→ 仕入れ予定金額の約50%は為替予約済(1ドル=101円)

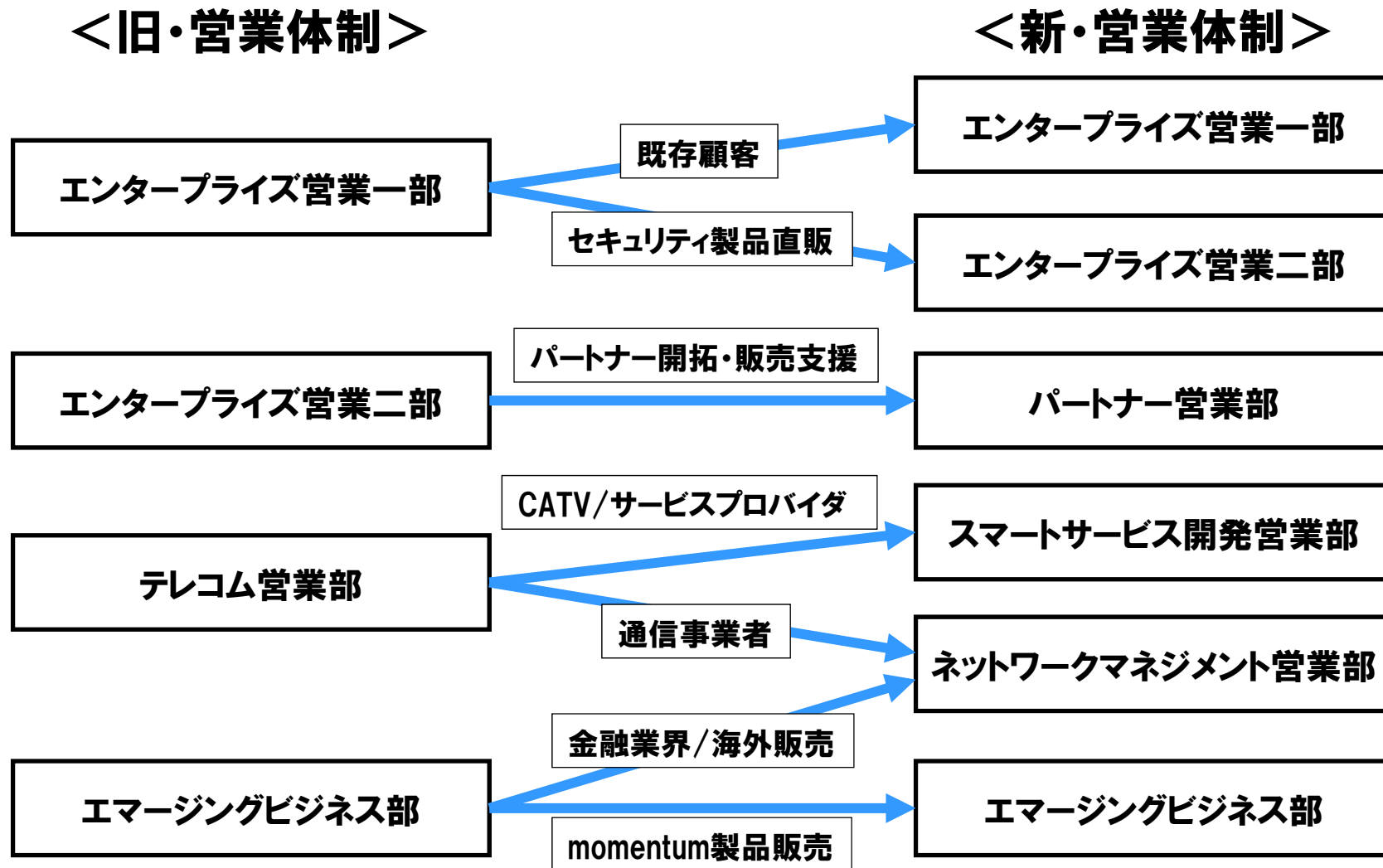
3) 生産性向上とコストの削減

→ 業務委託の見直し、業務内製化による外注費の削減

→ 固定費などの経費低減

経営環境の変化に適応した販売体制への転換を図り、
利益が確保できる体質を目指し、黒字化を達成する。

顧客基盤の強化と販路の拡大に向けた営業体制の見直し



■2015年3月期予想(前年対比)

(単位:百万円)	2015年3月期	2014年3月期		
	予想数値	実績値	増減額	増減比(%)
売上高	2,800	2,560	239	9.4
売上総利益	847	692	154	22.3
販売管理費	797	814	△17	△2.1
営業利益	50	△121	171	141.1
経常利益	30	△153	183	119.6
当期純利益	30	△147	177	120.4
為替レート(ドル)	103.00円	100.24円	2.76円の円安	
1株当たり 当期純利益	円 銭 1.95	円 銭 △9.58	—	—

■マーケット動向



クラウド市場

2017年のクラウド市場は2013年の2.9倍に
複数のクラウドを統合的に連携/管理するハイブリッドクラウドサービスの時代へ

- ・2013年市場規模は、前年比42.9%増(5,929億円)
- ・2017年市場規模は2013年比2.9倍の1兆7,307億円と予測

※国内パブリッククラウドサービス市場 2013年の実績と2014年～2018年の予測(出典:IDC Japan株式会社)
※国内プライベートクラウド市場 2012年の実績と2013年～2017年の予測(出典:IDC Japan株式会社)



セキュリティ市場

2017年の国内情報セキュリティ製品市場は2013年の1.2倍に
巧妙化する標的型攻撃への対策に、潜在的なセキュリティ脅威を可視化

- ・2013年市場規模は、前年比7.3%増(2,486億円)
- ・2017年市場規模は2013年比1.2倍の2,986億円と予測

※国内情報セキュリティ製品市場 2013年～2017年の予測アップデート(出典:IDC Japan株式会社)



モニタリング市場

2017年のシステム/ネットワーク管理ソフトウェア市場は2013年の1.2倍に
仮想化の浸透により運用自動化が拡大し、市場の成長をけん引

- ・2013年市場規模は、前年比5.2%増(3,064億円)
- ・2017年市場規模は2013年比1.2倍の3,551億円と予測

※国内システム/ネットワーク管理ソフトウェア市場 2012年の分析と2013年～2017年の予測(出典:IDC Japan株式会社)

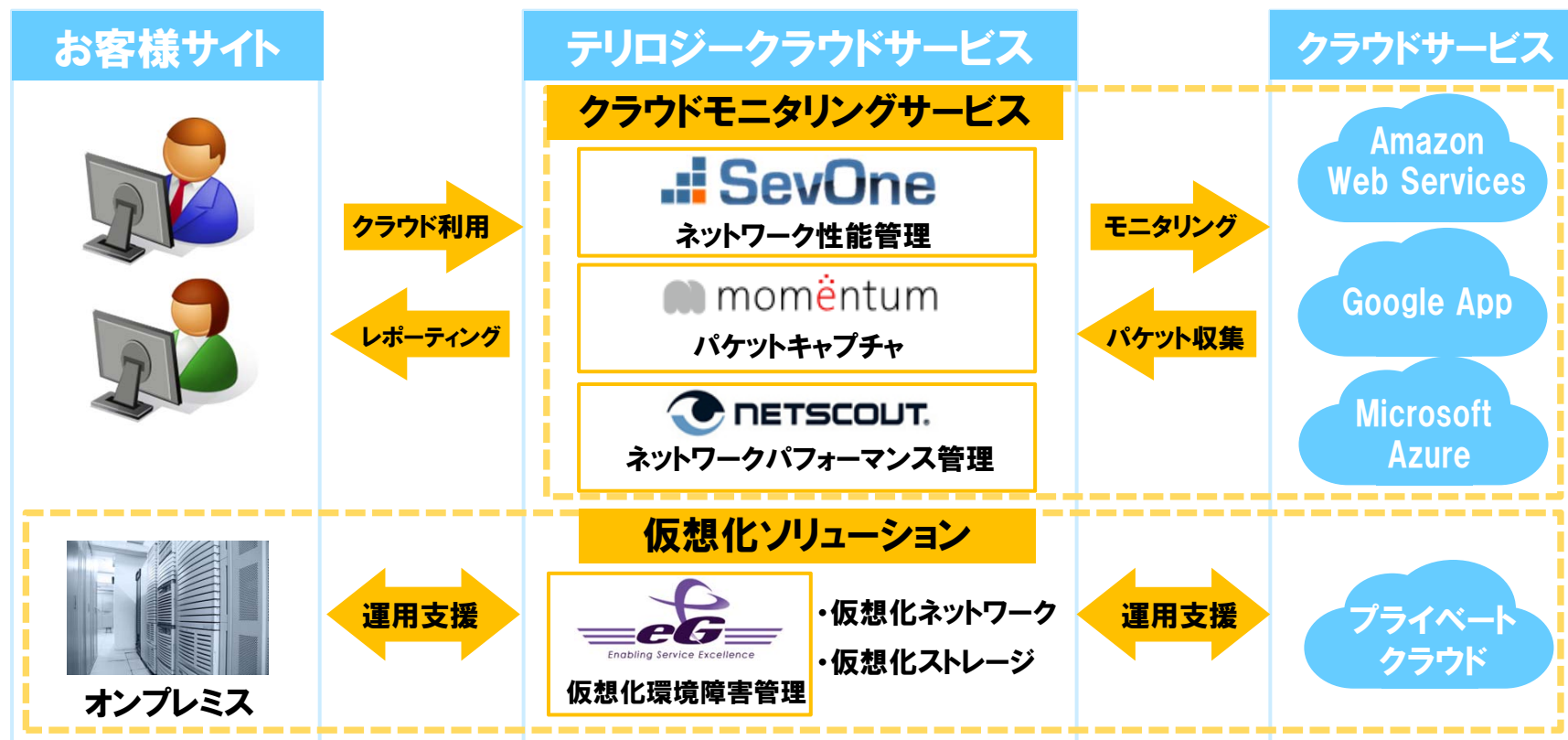


成長市場に向けたサービスビジネスモデルの投入

■成長戦略① クラウドサービス市場

・テリロジーのサービスビジネスモデル

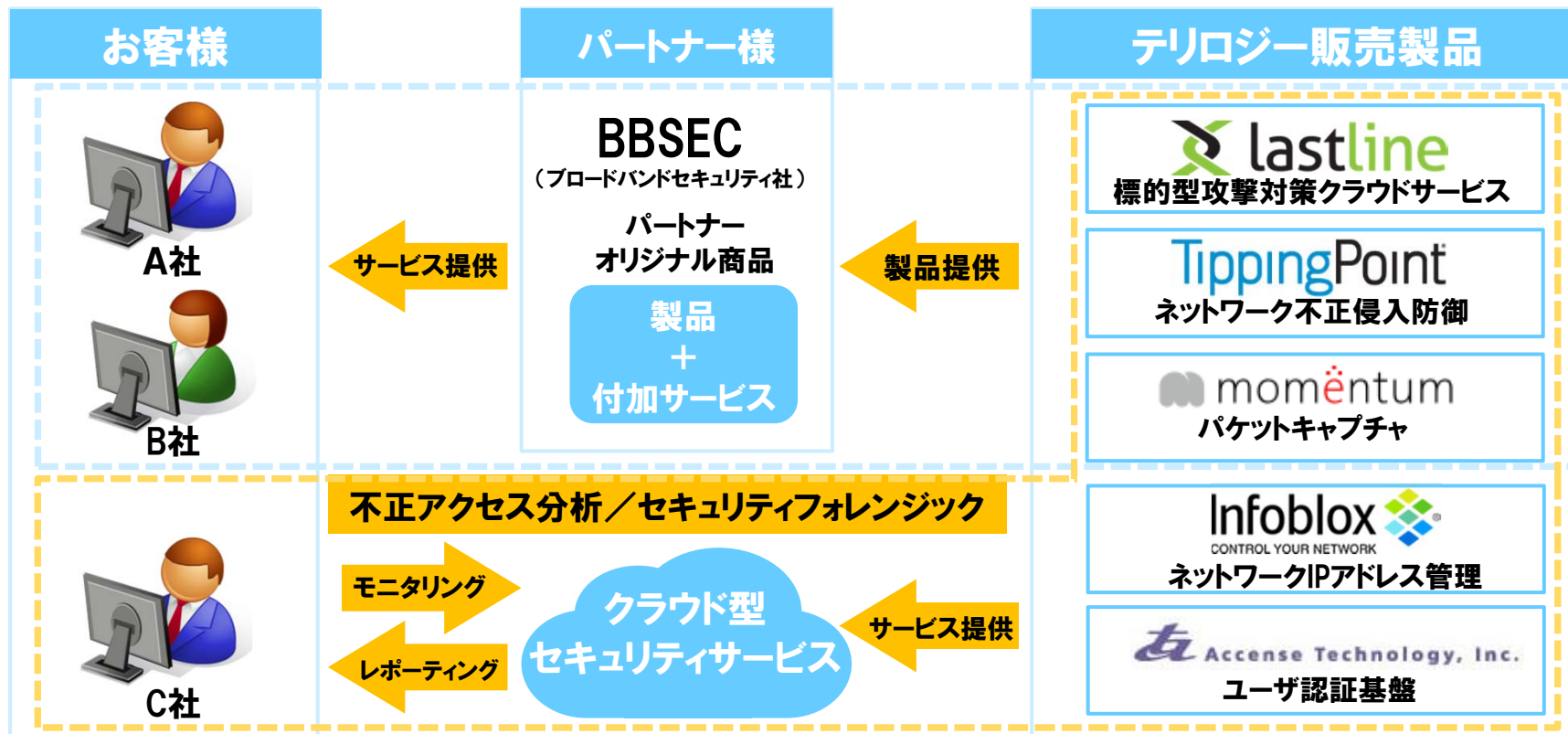
1. テリロジー取扱い製品を核としたクラウドサービスソリューション。
2. ビジネスを進化させるクラウドサービス基盤。(仮想化ネットワーク、仮想化ストレージ)



■成長戦略② セキュリティ市場

・テリロジーのサービスビジネスモデル

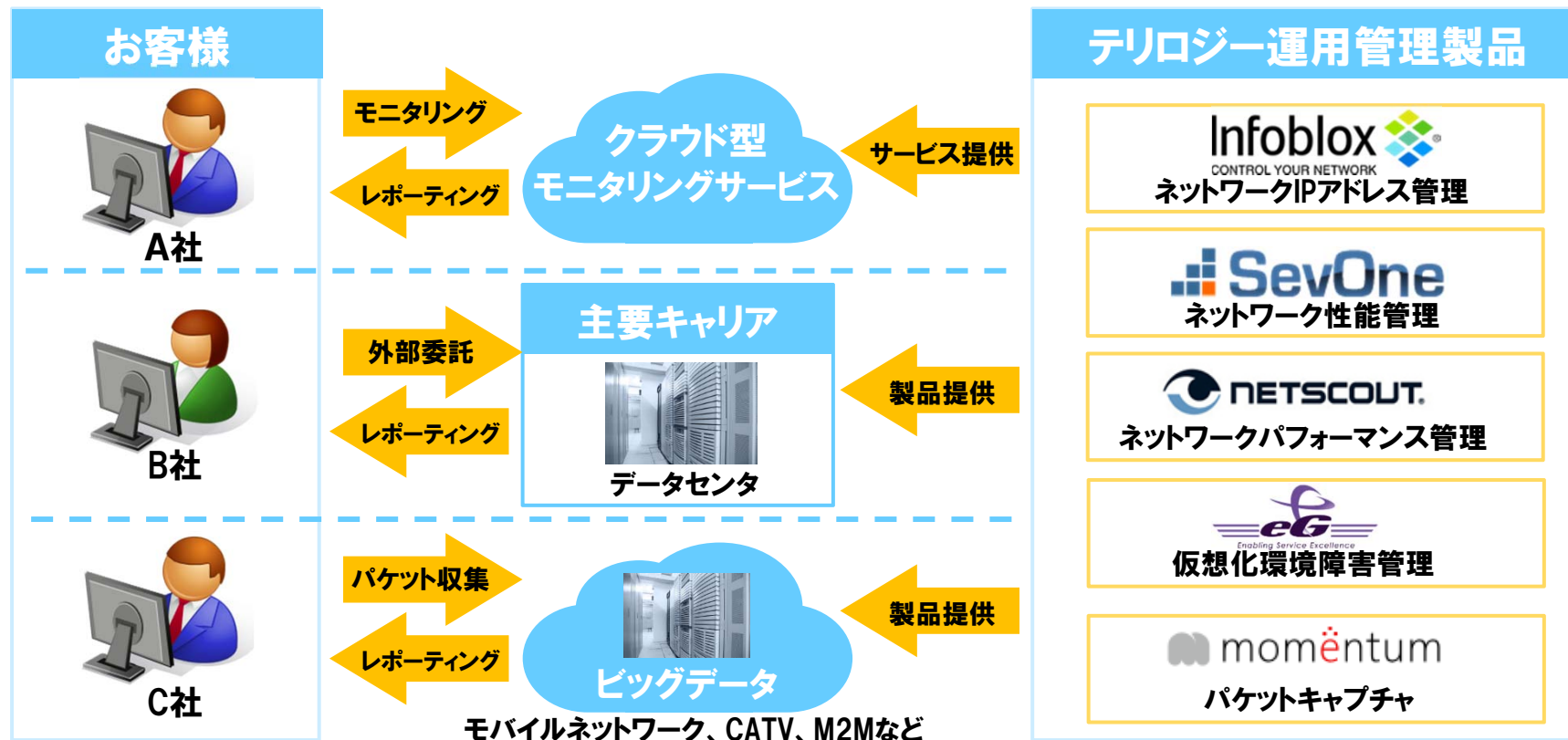
1. BBSEC(ブロードバンドセキュリティ社)とのパートナーシップの更なるビジネス協調。
2. HP/TippingPoint、Lastline、iMatrix、VASCOなどのセキュリティ製品のほか、お客様ネットワーク内での不正アクセス分析、セキュリティフォレンジックなど、セキュリティコンプライアンス製品の充実。
3. テリロジーブランドによるセキュリティサービスの策定。



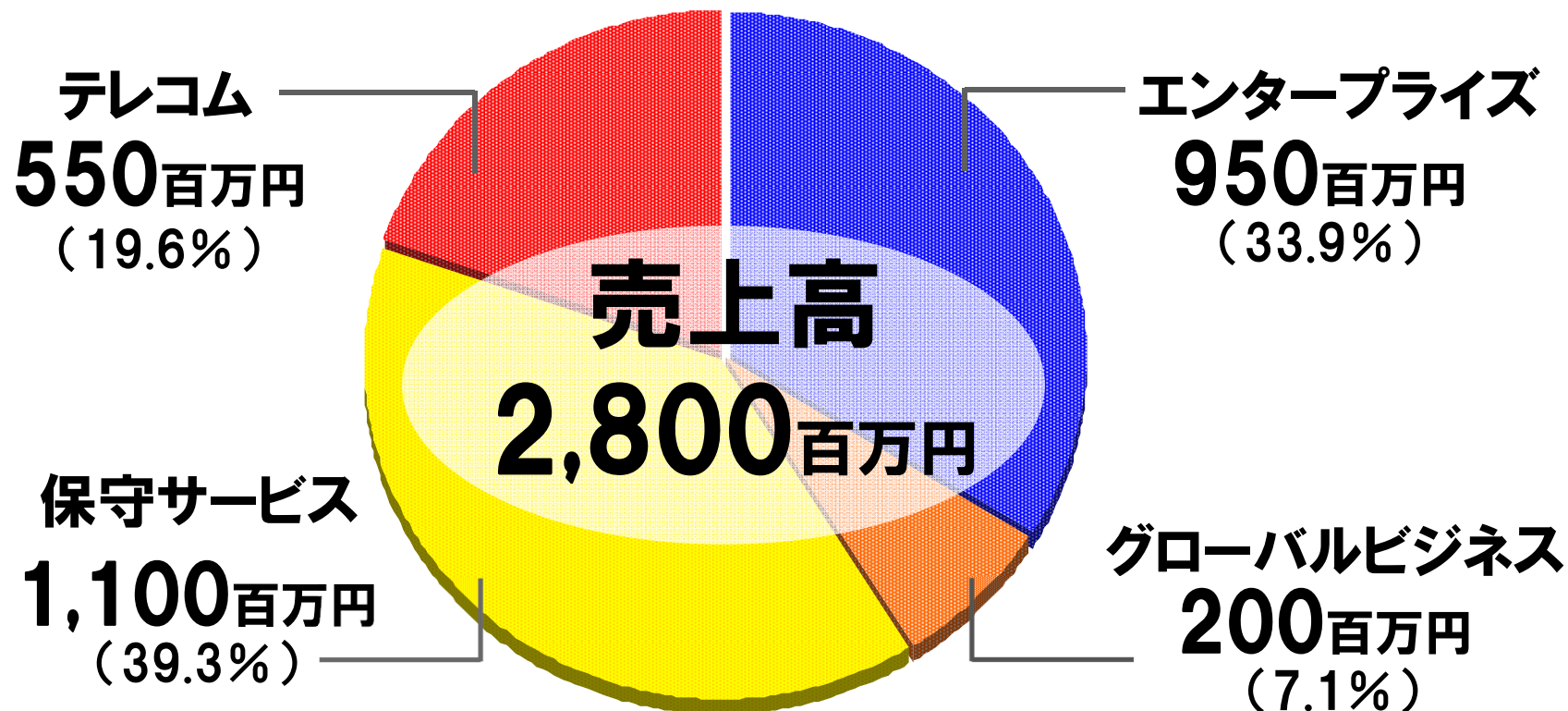
■成長戦略③ モニタリング市場

・テリロジーのサービスビジネスモデル

1. クラウド基盤を活用したテリロジー独自のモニタリングサービス。
2. 主要キャリアとのパートナーシップによる企業ネットワーク基盤向けモニタリングサービス。
(大手製造メカ向け社内ネットワーク基盤のモニタリングサービス)
3. 自社製品「momentum」をプラットフォームとする、ネットワーク上のビッグデータ分析領域の深耕。(モバイルネットワーク、CATV、M2M)



■ 事業部門別売上予想数値



(単位:百万円)	2015年3月期 予想	2014年3月期 実績	増減額	増減率(%)
テレコム部門	550	431	119	21.5
エンタープライズ部門	950	947	3	0.3
グローバルビジネス部門	200	74	126	63.0
保守サービス部門	1,100	1,107	△7	△0.7

[免責事項]

- 本資料は、業績の進捗状況の参考となる情報提供のみを目的としたものであり、投資等の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 本資料はできる限り細心の注意をもって作成されておりますが、その完全性についてテリロジーは責任を負うものではありません。
- また、本資料を判断材料とした投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。
- 本資料中の予想または計画は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は経済情勢等今後様々な要因によって予想または計画数値と異なる場合があります。

【IRに関するお問い合わせ先】

管理部

広報宣伝・IR担当 齋藤

TEL:03-5213-5533 FAX:03-5213-5532

E-mail:ir@terilogy.com